Girl Scouts of MIYAZAKI　ニューズレター

創刊号　2013年2月22日
発行:ガールスカウト宮崎県連盟 国際委員会

「食料への権利、世界の窓」日本語版 ついに完成!

宮崎県連盟が2008年より有志のシニア、レンジャー、成人会員が中心となって取り組んできた“THE RIGHT TO FOOD: A Window on the World”の日本語版のマンガとガイドブックがさまざまな分野の多く方たちのご協力によりついに完成しました。この本は、国際連合食糧農業機関（FAO）とガールガイド・ガールスカウト世界連盟（WAGGGS）が共同制作したもので、世界各国の食料への権利を学び、飢餓対策を考えるリーダーの手引きがついたアニメ形式の本です。

このニューズレターでは、本の内容やWAGGGSの国連チームの活動、翻訳本の贈呈についてご紹介します。

世界連盟事務局でメアリー事務局長に本を贈呈しました。

FAOとは

国連食糧農業機関の働きは、栄養水準を高め、農業の生産性を向上させ、農村の人々の生活を改善して世界経済の成長に貢献することです。世界の食糧安全保障を改善することによって、すべての人が活発で健全な生活を営むために必要な食事を確保できるように活動しています。

現在、地球上の約10億の人々が十分な食べ物を得られず、6秒間に1人の子どもが栄養不良で亡くなっています。飢餓は何百万もの世帯に計り知れない苦しみを与え、結果として健康不良、学習能力低下、生産性の損失を招きます。栄養不良の人々の割合はサハラ砂漠以南のアフリカ諸国で最も高く、2010年には30パーセントに及びました。最悪の栄養不良状態にある地域はアジア太平洋地域です。

食べ物が不足したり、身体が必要とする適切な種類の食べ物を満たせなくなったりすると、人々は飢えて栄養不良になってしまい、健康で活発な生活ができなくなります。食べ物は暮らしと健康にとって大変重要なので、世界中の政府が人々の食料への権利を認めています。ＦＡＯに関する詳しい情報：www.fao.org

ローマの世界連盟のFAO国連チームとは

ＷＡＧＧＧＳの国連チームは、世界の６都市、ローマ、パリ、ウィーン、ジュネーブ、ナイロビ、そして、ニューヨークで、国連の特定機関と密接に連携して活動しています。ローマでは 1968 年以来ＦＡＯと連携して活動してきました。2004 年に世界連盟とＦＡＯは協力関係を一層強化する目的で、覚書を交わしました。

ローマのＷＡＧＧＧＳのＦＡＯ国連チームを構成するボランティアは、

- ＦＡＯの集会、会議、首脳会議に代表として出席し、世界の食料問題に取り組むとともに少女と若い女性の声を届けるようにしています。
- 食料安全保障、健康と栄養、食料への権利、環境保護、気候変動についての情報を少女と若い女性に広めています。
- ＦＡＯと世界連盟の栄養メダル賞、「頭脳を養い飢餓と戦う」の構想、「食料への権利、世界の窓」のアニメ本、チャレンジバッジ、絵画コンテスト、ＹＵＮＧＡ、などの若者教育のプロジェクトに共同で取り組んでいます。

YUNGAとは

ＹＵＮＧＡ（青少年と国連の国際同盟）は、国連機関と民間組織、公共団体、青年グループ間での構想を生み出すために創設されました。ＹＵＮＧＡとそのパートナーの共同作業によって、農業、生物多様性、気候変動、エネルギー、森林、食料安全保障、飢餓、栄養、海洋、水、国連ミレニアム開発目標、などのテーマに関する問題に取り組んでいます。

145 ヶ国に 1 千万人の会員をもつWAGGGSはＹＵＮＧＡと積極的に協力しています。最新の共同プロジェクトとしては 6 歳から 20 歳までの子どもや若者が参加する、気候変動と生物多様性に関する国際絵画コンテストやチャレンジバッジがあります。

ＹＵＮＧＡに関する詳しい情報（英語）：http://younga-youth.weebly.com/

「食料への権利、世界の窓」のプロジェクトはいつ始まったのですか?

2004 年 11 月にＦＡＯ加盟国が食料への権利に関する自主ガイドラインを採択しました。この指針は、食料への権利という考えをとくに若い世代の人たちにもっと普及させて理解してもらうためにまとめられました。子どもと若い人たちこそが将来を担い、飢餓と戦う主体になりますから、責任ある世界市民になってもらうための自覚を高めたり、情報を普及したり、行動をうながしたりすることがきわめて重要です。

マンガ本作成プロジェクトは 2004 年 12 月に始まりました。その当時から食料への権利に関する文書はいくつかありましたが、どれも子どもや若い人向けに書かれていませんでした。それで、プロジェクトの作業チームは、挿絵が豊富でストーリーの重要なメッセージを簡潔に伝えるような図解入りの本があれば、世界中の若い読者に届く重要な教育手段になるだろうと考えました。地域や国、世界的なレベルで行える効果的な実践と計画の実例を紹介することによって、地域やこの本は若い人たちに農業や栄養、教育の分野に深く関わってもらうように勧めています。

どのようにアニメ本は作成されたのですか?

「食料への権利、世界の窓」はＦＡＯと世界連盟の共同プロジェクトで、ＦＡＯの専門的知識と世界連盟の 80 年以上にわたる国際的なノンフォーマル教育という両者の強みを活かしています。ローマの WAGGGS のＦＡＯ国連チームとＦＡＯの専門家で構成された作業グループは、プロジェクトの開発と実行面で重要な役割を果たしました。

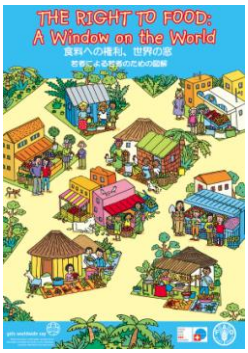
ブラジル、カナダ、インド、インドネシア、イタリア、ヨルダン、シエラレオネ、ウガンダの８ヶ国のストーリーはいずれも各国の現状と問題の解決策を図解で説明しています。マンガのイラストは８ヶ国のガールスカウトと若いアーティストたちの間で催された絵画コンテストの受賞作品から選ばれたものです。

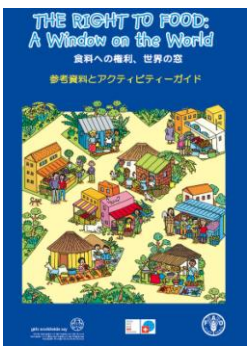
別冊の「参考資料とアクティビティーガイド」は、学ぶことが興味深く楽しくなるように簡単な指導マニュアルを載せています。２冊ともアラビア語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語に翻訳されて、2006 年 10 月の世界食料デーの記念式典の中で公式に刊行されました。

アニメ本の配布と活用方法について

「食料への権利、世界の窓」の冊子はWAGGGSの 145 ヶ国の加盟国、ＦＡＯの地域及び国管轄事務所、学校などに広められています。世界連盟の会議やＦＡＯの行事に参加する人たちにもよく配布されたりします。

ＦＡＯとWAGGGSのホームページでも冊子の普及に努めています。アニメ本とガイドブックの双方向版もあります。www.feedingminds.org（英語）





日本のガールスカウトのリーダーはどのようにこの本を活用したらいいですか?

リーダーとして、あなたは情報を知らせたり共有したり、参加を促したり、飢餓のない世界を実現するうえで若い人たちが重要な役割を果たしていることを示したりすることによって、スカウトたちによい影響を与えることができます。国連やほかのパートナーと一緒になって飢餓と栄養失調を撲滅する世界的な運動にスカウトたちも協力してもらうように、準備して勧めることもできます。スカウトたちに「食料への権利、世界の窓」のアニメ本を配って人権と食料安全保障の問題への意識を高め、飢餓問題を解決するために積極的に行動してもらうこともできます。

- 団やグループでアニメ本を実際に使ってみましょう。各ストーリーは一話で完結しており、食料への権利のさまざまな場面を扱っています。登場人物の設定も異なります。
- アクティビティーガイドを活用して、少女たち自身の食料に影響を与える問題に関するプログラムを作成してみましょう。グループ全体の「リフレクション」では、その活動が食料への権利とどのような関連があるのか深く考えて話し合ってもらいます。
- 地域社会のみなさんにもこれらの問題について伝えてください。「食料への権利」のイベントを企画して、保護者や学校、行政にも呼びかけましょう。場所を問わず活動しましょう。
- トレイナーはこれら２冊を使って人権と食料への権利に関するワークショップや研修会を行うことができます。文化や生活様式、習慣、自然環境、生活環境などが国によって違うという異文化間の問題を取り上げることができます。

日本のガールスカウトはこの本をどのようにして活用することができますか?

- アニメ本を読んで食料への権利について学びましょう。すべての人が飢餓を免れる権利を持っているという内容です。自分でまたは部門やパトロールで読んでみましょう。
- ストーリーの内容についてパトロールで話し合ったり、アクティビティーガイドのゲームに挑戦したりしましょう。
- 日本における食料への権利について、独自のストーリーとイラストを作ってみましょう。
- あなた自身の活動や作成したストーリー、絵画をＷＡＧＧＧＳやＦＡＯに送って報告しましょう。ＷＡＧＧＧＳのホームページやフェイスブックにもアイデアとコメントを投稿してください。
- 飢餓や栄養の問題を探究するための国際的な教室に参加してください。
  「頭脳を養い、飢餓と戦う」www.feedingminds.org（英語）

日本のガールスカウトたちが飢餓をなくすために貢献できることは他にもあります。

- 飢餓撲滅のための請願書に署名をしてください。www.1billionhungry.org（日本語）
  世界的な飢餓撲滅運動にあなたも声を合わせて参加してみましょう。飢餓撲滅の嘆願書を集めて国内外の運動の政治家たちに目標達成まで動いてもらうのです。上記のフェイスブックやツイッターもフォローする方法もあります。
- 慢性的な飢餓を終わらせるために、運動に継続的に参加してください。
- 飢餓を撲滅するプロジェクトを考え、身の回りや地域社会で実行してください。プロジェクトの助成金を募ったり申し込んだりしてください。
- 栄養プロジェクトを実施し、ＦＡＯ－ＷＡＧＧＧＳ栄養メダルに応募してください。例えば、地域社会で菜園を始めたり、すでに行っている人たちに協力したりすることができます。
- ＦＡＯや世界連盟主催の絵画コンテストに欠かさず参加しましょう。
- 毎年 10 月 16 日の世界食料デーを祝いましょう。
  www.fao.org/getinvolved/worldfoodday/en/ （英語）
- ＧＡＴバッジで飢餓と貧困について学びましょう。ミレニアム開発目標を学ぶことによって、すべての会員がよりよい世界を作る活動に関わるように WAGGGS は勧めています。

2012年８月に行われた宮崎県連盟主催の海外研修では、英国、イタリア、日本の関係者に日本語訳の完成版を贈呈することができました。

パックスロッジでは、夏のセッションに参加し、８月下旬に着任したルースセンターマネージャーに翻訳本を贈呈しました。

日本人スタッフの塩川友美さんに派遣中お世話になり、宮崎のスカウトたちも将来ボランティアスタッフになりたい！と夢を語っていました。

ローマでは、ＦＡＯの国連チームの元代表で、このプロジェクトのコーディネーターを務めるマリア・ボロディナさんにお会いしました。マリアさんは特別な思いで日本語版を受け取られました。東日本大震災へのお見舞いを述べられ、ご自身も故郷のベラルーシでチェルノブイリ原発事故を幼い頃に経験されているので、日本の状況をとても心配されていました。

日本のガールスカウトのみなさんへメッセージ

みなさんには世界をよりよい場所に変えていく想像力、理想、そしてエネルギーがあります。
もしみなさんが私たちと同じように、飢餓と栄養失調を終わらせる知識と資源がある世の中でこのような悲劇は許されないと信じてくださるならば、私たちと一緒に力を合わせて　飢餓と戦いましょう。
私たちが住む世界に対して責任を持って、自分たちと次世代にとってよりよい場所となるように変えていきましょう。

マリア・ボロディナ

FAO 本部前にて　マリアさん（写真左）

ＦＡＯ日本事務所を訪問し、翻訳本を贈呈して、ＦＡＯのお仕事についてお話をうかがいました。

ホームページにも訪問や本の紹介がされ、今後の活動につなげるためのヒントを得ることができました。

また、ガールスカウト会館では浅野会長に、宮崎県庁では河野知事と飛田教育長に本を贈呈し、海外研修と併せて報告しました。ＮＨＫ、宮崎日日新聞、夕刊デイリー、読売新聞で県庁訪問の様子が紹介されました。

さらに国立国会図書館、宮崎県内の大学や高校など関係機関にも翻訳本を寄贈しました。

FAO 日本事務所にて

＜編集後記＞

この翻訳プロジェクトはパックスロッジから始まった多くの方との出会いによって実現しました。そして、今回の派遣はマリアさんと 2001 年にパックスロッジのボランティアスタッフを共に経験して以来の再会となりました。飢餓のない世界を実現するためにＷＡＧＧＧＳの代表として情熱を持って活動する姿にはとても感心し、日本人の私たちにもできることはまだあるのではないかと感じました。マリアさんも私も、日本の多くのガールスカウトがこの本を活用され、飢餓のない世界にするために活動の幅を広げて頂くことを願っています。

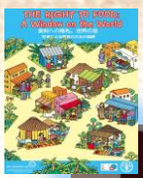
みなさんはもう「食料への権利、世界への窓」の本を読んで下さいましたか？まだの方はぜひお読みいただき、周りの人たちにも勧めたり集会などで活用したりしてください。また、ご意見やご感想などがありましたら、どうぞガールスカウト宮崎県連盟(gs-miyazaki@vesta.ocn.ne.jp) までお寄せください。

改めましてみなさんの厚いご協力に感謝をいたします。ありがとうございました。　（野﨑　弘美）

Girl Scouts of Miyazaki ニューズレター

Vol. 2
2014年12月
発行：(一社)ガールスカウト
宮崎県連盟　国際部会

「食料への権利、世界の窓」の研修会を行いました。



10月26日、県連盟主催事業の国際ガールズデーをガールスカウト69名、リーダー26名の参加で行いました。

午前中は、「食料への権利、世界の窓」の8つの物語の中のインドの学校給食の現状を通して食料への権利を学びました。

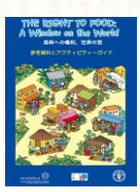
サリー姿のシニア、レンジャー達が物語を朗読し、みんなで内容について考え、アクティビティーガイドの「飢餓の悪循環を断ち切ろう」 をパトロールに分かれて行いました。体を動かしながら、貧困と飢餓を断ち切ることがいかに難しいかを考えることができました。また、世界の給食についても学びました。

午後は、年少と年長部門に分かれて、韓国の文化とStop the Violence　キャンペーンについて研修を行いました。

おやつはフェアトレードの砂糖を使用したオリジナルのマドレーヌを地元の障がい者支援施設とのコラボレーションで準備し、フェアトレードを紹介しました。

＊「食料への権利、世界の窓」は、国連食糧農業機関（FAO)とガールスカウトが共同制作した若者向けの食料への権利を学ぶ教材です。

ガイドブックのイチ押しアクティビティー！



2009年から毎年「食料への権利、世界の窓」の本を活用した研修会をガールスカウトや成人向けに行っています。その中で、イチ押しのアクティビティーを2つご紹介します。

1つめは、不平等な扱いを疑似体験する、ブラジルの「わたしたちはみな、平等な権利をもっています」。2つめは、対象が年長部門以上なら、戦争や天災の時の食料の入手の影響を説明する、シエラレオネの「特別なレポート」です。

指導者研修会や集会等で工夫して取りいれてみられたらいかがでしょうか。

こんな活用もできます！

機関誌の「Girl Scouting」や「OLAVE」の「GAT Graphics」の資料なども参考にして、活動に取り入れてみるのは、いかがでしょう。

また、国際協力に携わる専門家などを招いてみることもいいです。

そして、GATバッジをはじめ、部門バッジ等につなげることができます。

「食料への権利、世界の窓」の本のご注文、研修に関するお問い合わせやご感想は、宮崎県連盟の国際部会へお気軽にご連絡下さい。

一般社団法人ガールスカウト宮崎県連盟
〒880-0027　宮崎市西池町12-6 宮崎教育事務所1F
TEL：0985-65-5305　FAX：0985-23-5399
E-mail：gs-miyazaki@vesta.ocn.ne.jp
＊事務局（月・水・金　10:00～17:00　open）